

【裏山・自然全般】

実践① 3歳児（裏山に園外保育）

交通安全についての絵本や紙芝居を見たりお話を聞いたりして、安全について意識をもちながら少しずつ距離を延ばして園外保育に出かけることにより、規範意識の芽生えも育った。

目的地では石段や急な坂道でも保育教諭に見守られている安心感から、積極的に昇降して挑戦しようとし、繰り返すうちに全身でのバランスを調整できるようになり、健康な心と体が育っていった。

実践② 5歳児（裏山に山登り）

子どもたちが裏山から城山公園に登り、小学校横に降りてくるコースにチャレンジしました。少しコースから外れた難関コースに挑み、足がずり落ちる感覚や、谷足、山足の使い方、体のバランスを取らないと登れない体験をしました。

友だち同士声を掛け合い、「大丈夫か?」「土・木・葉っぱを持ったら大丈夫やで」と自然と友だちを思いやる言葉が出てきたり、足がずれ落ちそうになる友だちのお尻を支えてあげたり、友だちと助け合いながら無事に頂上にたどり着くことができました。

頂上が見えた時「あー生き残れてよかった」、頂上からの景色を見て「あ〜日本って大きいなあ」など心からの声がたくさん聞かれました。双眼鏡で遠くの景色を見たり自分たちより背の高いすすきの中で鬼ごっこをしたり普段味わえない体験がたくさんできました。

出発前は「山登り疲れる」「登るの無理かも」と不安げだった子どもたちも、頂上での表情は、友だちと助け合いながら最後まであきらめずにやり遂げた達成感でいっぱいでした。

帰ってくると「また山登りしたい」「明日行こう」とやる気満々の子どもたちの笑顔が印象的でした。発達に即して園児の必要な体験が得られるように工夫したり、主体的な活動を促す環境を準備することで子どもたちは充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を働かせ、繰り返し挑戦したり、見通しをもって自立して行動できるようになると思います。

実践③（自然の中での活動を通して）

本園では、5歳児が春、秋と週に1回約2時間程度、計画的に野外に出て自然の中で活動し日々の生活や遊びから就学前に向けて幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を目指して取り組んでいます。

前日には家庭において必要な持ち物の点検表（準備物写真つき）を見ながら、自分で行き保護者と確認して明日の活動に見通しをもち期待して行動できるようにしています。「自分のことは自分ですること」が習慣になってほしいと考えています。秋には一人で準備ができ

たと報告する子もありました。

園を出発する前にバンダナ、ループ、図鑑、長靴等を身に着け、チームが集まると準備物をもう一度確認します。忘れていないことに気がついて取りにいく姿もあります。天気予報やその日の天候でカップが必要かもしれないなど予測もしています。その日のテーマを楽しみにしながらに園長先生や他の先生に自分から挨拶をして出発します。

友だちと一緒に6～8人で活動をしています。自然を守るためにどんなことができるか、また身近な事象、自然に触れ動植物を観察し好奇心や探求心をもち取り組んでいます。自然の中では、自分が見たことや感じたことは一人ひとり違い、答えは1つでないので自由な発想ができます。それを友だちや保育者に話したり、受けとめてもらったりしてお互いの思いや考えを共有し、チームの中で協力する姿もみられます。

虫の観察で生態や役割（栄養のピラミッド）、草花の名前や植物に必要なもの、木の実、落ち葉の役割など生命の不思議さや尊さに気づき、命あるものとしていたわり、大切にすることが育っています。また、園外で昆虫の足の本数、花びらの枚数、木の実や落ち葉他を見つけて数や形や大きさに分けたりして遊んだり、集団で名前ゲーム、ムツレのうた、季節のうた、（草花の名前当て）やゲーム（ムツレ鬼・ムツレの石鬼・とんびの羽の下・巣をかわろう・ひよことおおかみ）などを行っています。

一緒に遊んだり行動したりすることで良い事、悪い事や自分の行動を振り返り、きまりを守る必要性も分かっていきます。トラブルが起きても自分の気持ちを調整し、折り合いをつけていきます。

森の中で実際に体験した筍掘りの絵では、自分なりに表現した一人ひとりの個性溢れるダイナミックな絵が出来上がりました。積極的に関わった意欲が現れていました。

ムツレ教室の最後のファイナルパーティーには野外で妖精のムツレさんに出会います。自然の話に目を輝かせて、これまでに経験したことや話を聞いた不思議なことなどに目をパチクリさせています。外でパン生地を棒に巻きねじりパンを炭火でじっくり焼きます。焦がさないように慎重に周りをひっくり返しながら、ふっくらと焼き上がったパンの味は格別です。「スープにつけると美味しいな～」と、きっとこの経験はいつまでも心の中に残っていると思います。

コロナ禍でこの2年間は保護者に参加してもらっていませんが、親子二代でこのムツレ教室を体験している方もおられます。童心に返り再びムツレさんの登場を見てワクワクした、懐かしくて嬉しい気持ちになったという感想もありました。親子の会話も沢山できたことでしょう。

地域を歩くことで、近隣の方と挨拶したりお話を聞いたり、公園の管理の方と親しみを持ち関わったりしています。また園の畑で栽培をお世話してくださっているおじいちゃんやおばあちゃんとも心安くお話してもらっています。いつも園のこと、子ども達のことを優しく見守ってくださっています。

園では0・1歳児はオープンプレ教室（本物そっくりな動物と出会い一緒にお話や歌をうたう）2歳児はクノッペン教室（つぼみちゃんに会い自然の中で一緒に遊ぶ）3歳児クニュータナ教室（てんとう虫のニックさんと自然観察し一緒に遊ぶ）4・5歳児はムツレ教室を

おこなっています。

乳幼児期から五感を通じて体験したことが大人になって懐かしくよみがえってくると思います。自然の中での体験は未来へのお土産です。自然の中の遊びを楽しみながら体力作りもでき、友だちと協力することも学べ、注意して行動することも身につきます。

現代は自然の中で遊ぶことが減ってきているので、意図的に園で自然の中へ誘いかけることが必要だと感じています。生き生きとした子どもを育てるため、自然で遊ぶ機会を作ること、園の教育・保育で重要であると考え、就学に向けて、これからも継続して取り組んでいきたいと思っています。

ゴミを拾うこと、動植物を大切にすることから環境や資源、諸問題等を身近にとらえ、将来、SDGs につながる持続可能に生きていくための解決にむけて行動を起こせる人に成長してほしいと思います。